

株式会社ユーグレナ SDGs/ESGに関する取組



2018年11月26日（月）
代表取締役社長
出雲充

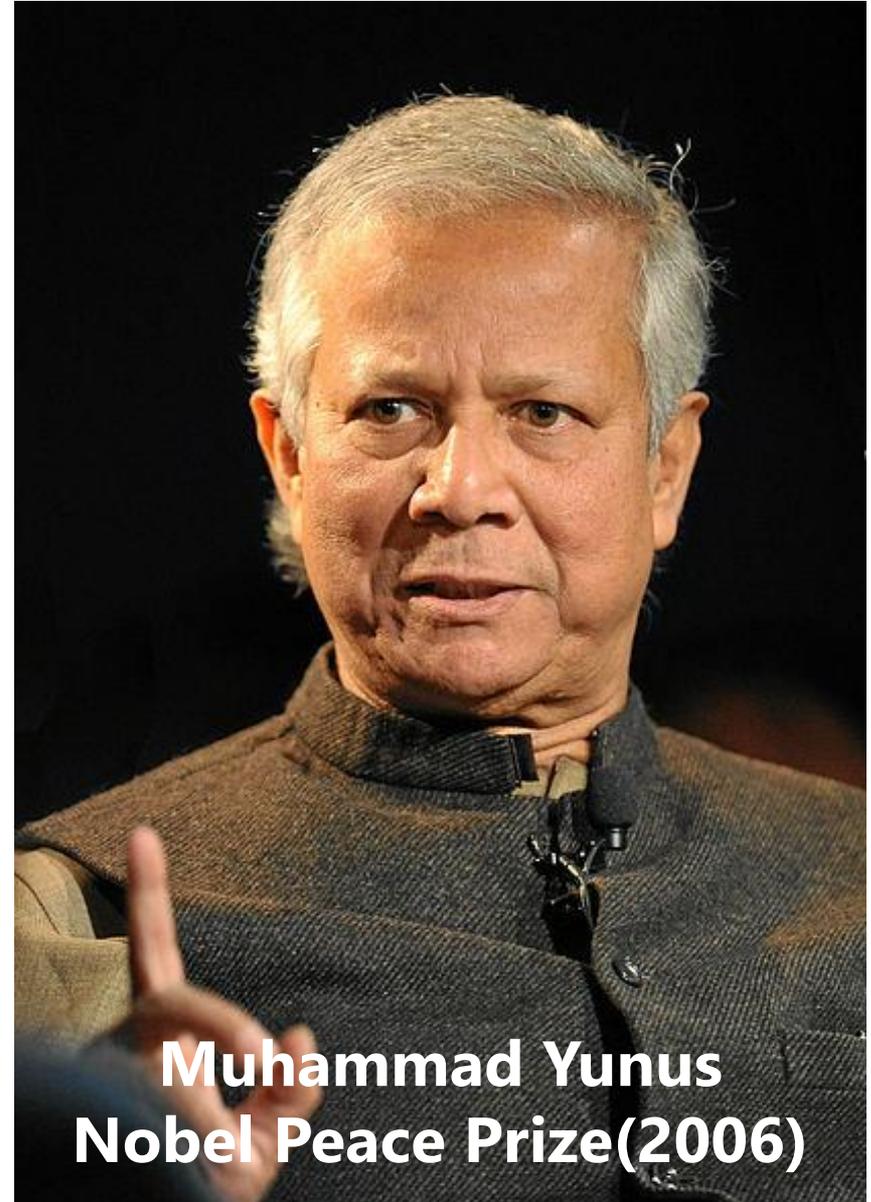
SDGs/ESGに関する事業 の紹介



株式会社ユーグレナとは、

2005年12月に**世界で初めて**
微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の
屋外大量培養に成功した東京大学発ベンチャー企業

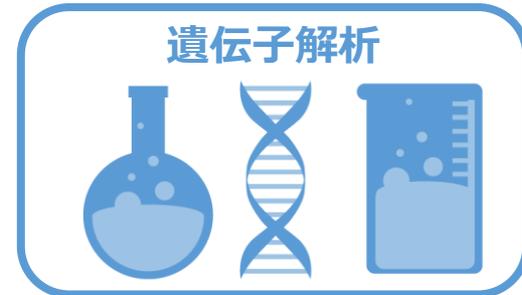
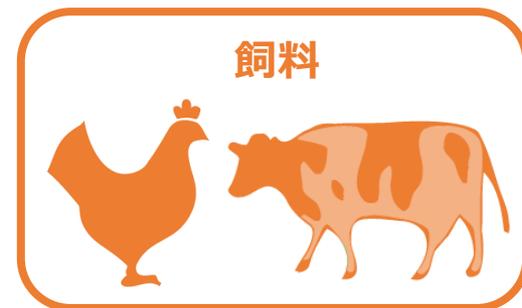
創業ストーリー



株式会社ユーグレナの経営理念とビジネス領域

経営理念は「人と地球を健康にする」

- ヘルスケア領域
- エネルギー・環境領域
- バイオインフォマティクス領域



当社のSDGsの取組み

ユーグレナ
GENKIプログラム



サステナビリティ



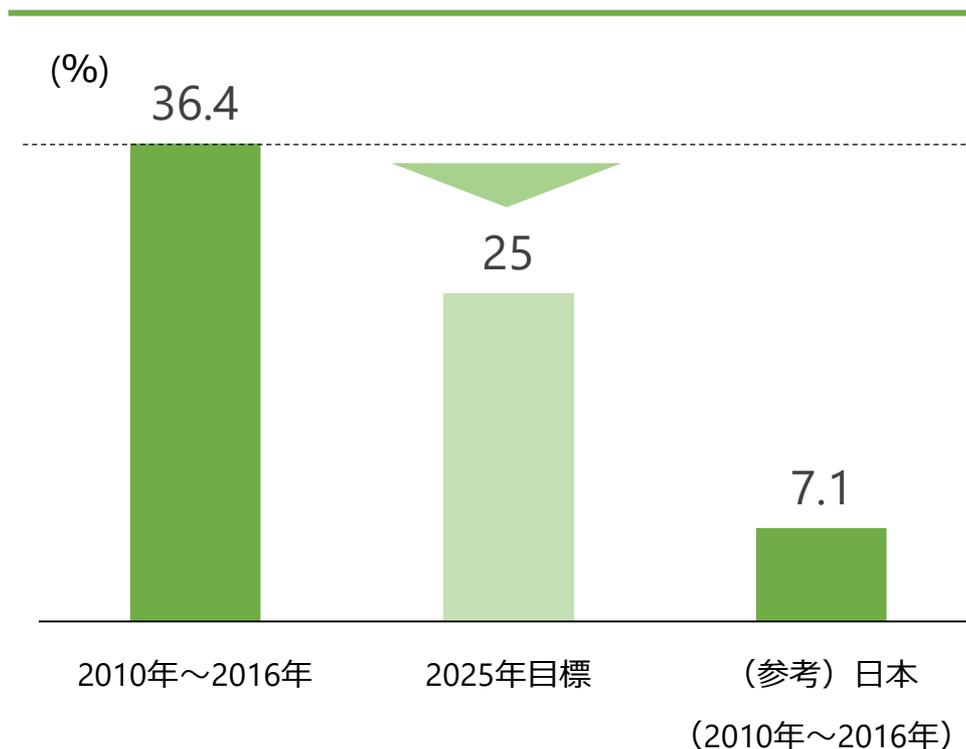
ASC認証の取得

Bangladesh の栄養問題

Bangladesh では子どもの**3人に1人が栄養不良**。長期的な政府の削減目標を当社が後押し



Bangladesh における
5歳未満の栄養不良の子供の割合



栄養状態を良好にする
手頃な健康食への
アクセス
が課題

出所 : THE WORLD BANK, World Development Indicators: Global goals: ending poverty and improving lives、The Second National Plan of Action for Nutrition (NPAN 2), 2016-2025より当社作成

ユーグレナGENKIプログラム

2014年からバングラデシュにて開始
59校の小学校にて**1日当たり約10,000人**、
累計600万食を配布



世界の子どもに栄養を ユーグレナGENKIプログラム

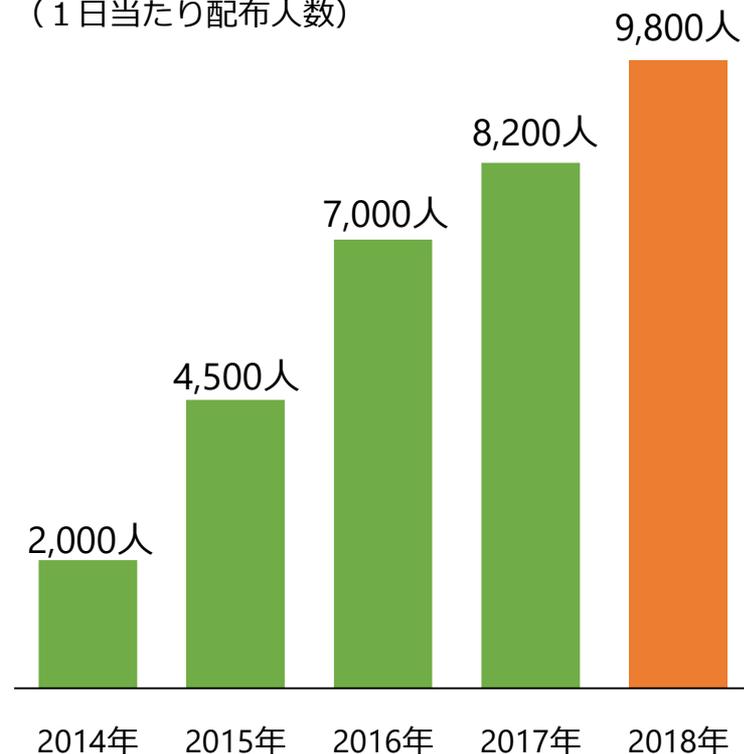
①日本からの協賛 (2014年4月～)

対象のユーグレナ入り商品を
1つお買い上げ毎に10円の寄付

②バングラデシュからの協賛 (2017年9月～)

現地NGOからクッキー1袋につき5円の寄付

(1日当たり配布人数)



ロヒンギャ難民への食糧支援

ロヒンギャ難民キャンプへ ユーグレナクッキー20万食分を運送

社員からの寄付400万円を
集め現地へ（2017年12月）



クッキーを難民キャンプに届ける様子



クッキーを受け取る難民



難民キャンプ

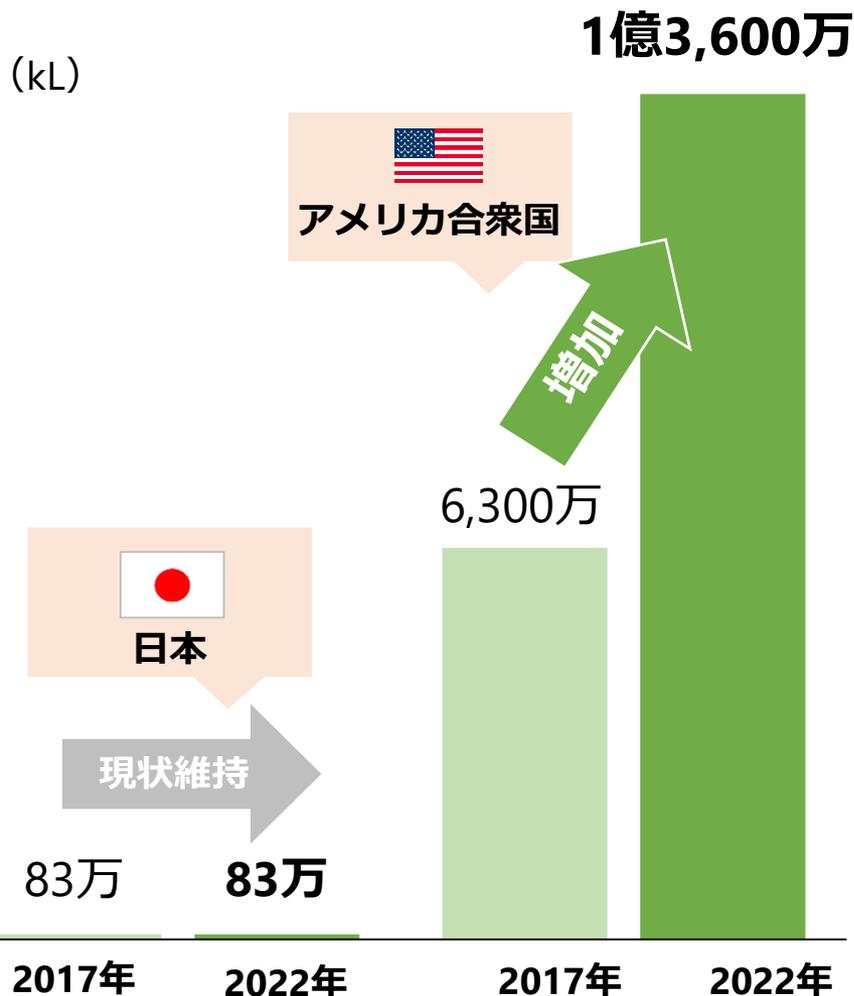


ユーグレナクッキー



主要国におけるバイオ燃料導入目標量

日本のバイオ燃料導入目標量はアメリカと比して低く留まる



2022年、アメリカは
日本の導入目標量の
160倍以上

出所：平成26年度石油産業体制等調査研究(バイオ燃料に関する諸外国の動向と持続可能性基準の制度運用等に関する調査)報告書_(株)三菱総合研究所

世界のバイオジェット燃料使用状況

15万回

2011年以降バイオジェット燃料を使用したフライト数

米欧中を含めた20ヶ国

バイオジェット燃料の有償フライトを実施した国数



バイオ燃料実証プラント建設の軌跡

2018年11月「GREEN OIL JAPAN」を宣言

2015

2015年5月30日
CLG社と締結契約(※)

2015年12月1日
国産バイオ燃料計画を発表

2016

2017年2月10日
千代田化工建設と
工事等請負契約を締結

2017

2017年6月1日
実証プラント建設着工

2018

2018年10月31日
実証プラント竣工

2018年11月2日
GREEN OIL
JAPANを宣言



2017/11



2017/12



2018/4



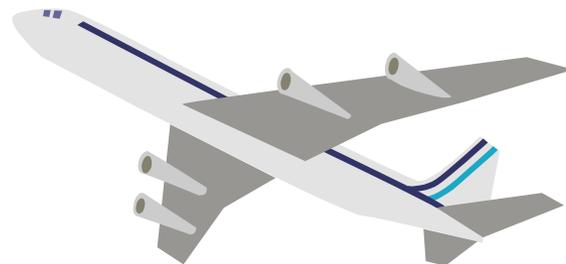
2018/7



2018/10

(※)CLG(Chevron Lummus Global LLC)との間で、バイオ燃料アイソコンバージョンプロセス技術に関するライセンス契約及びエンジニアリング契約を締結

2020年に日本初の
有償フライト実現へ



2025年に年産25万KLを生産
(国内バイオ燃料導入目標量の4分の1以上)

100万KL/年

25万KL/年

125KL/年



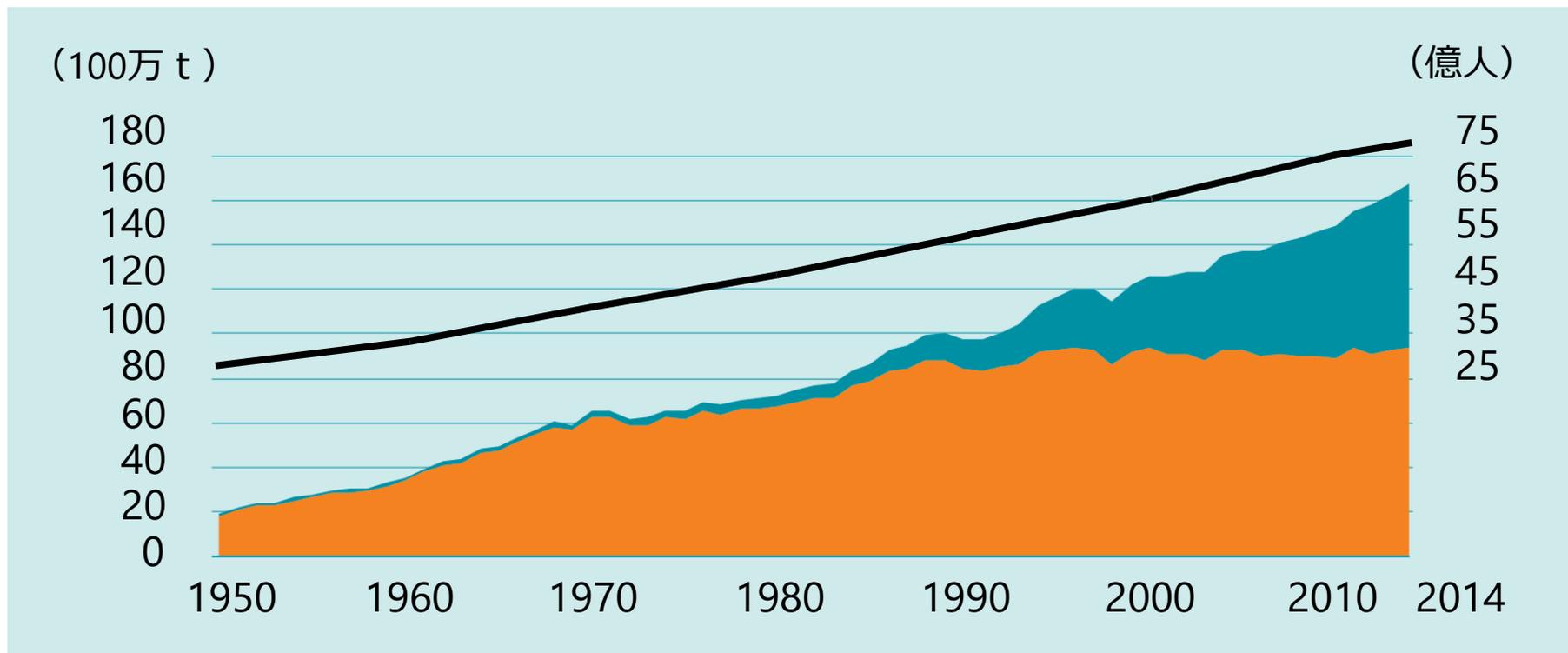
世界人口と漁獲量・養殖生産量の関係

世界人口の増加に伴い

漁獲量・養殖生産量が共に増大



世界の漁獲量 / 養殖生産量及び人口増加推移



■ 養殖生産量 ■ 漁獲量 ■ 人口(右軸)

出所：JAICA「要約版世界漁業・養殖業白書2016年」、UN, World Population Prospects 2017

魚介類の消費量/海洋資源枯渇の危機

生活水準の向上により**1人当たり魚介類消費量も増大**。養殖生産量の増加も併せて**海洋資源枯渇の危機**



世界の1人当たりの年間魚介類消費量



生物学的に**持続不可能**な水準にある水産資源



出所：JAICAF「要約版世界漁業・養殖業白書2016年」



ミドリムシで

藻類 **世界初** ASC (※) 認証申請



- ロンドン・リオ五輪では養殖水産物の調達基準としてASC取得を義務付け
➔ **2020年東京五輪でも、水産物調達に係る国際基準への準拠が望まれる**
- **ASCの取得ノウハウを他の国内生産者に共有・展開し、水産物の持続可能な調達の向上を推進**

出所：ASC事務局エコラベル認証チームの許可を得て、ロゴを掲載
※養殖水産物が持続可能で環境や社会的責任に配慮して生産されたことを認証する制度

SDGs/ESGに関する開示 の紹介

当社におけるSDGs/ESGに関する開示の重要性

東証一部上場企業の中でも株主数はトップクラス

SDGs/ESGに関連した事業内容への個人投資家の関心は高い

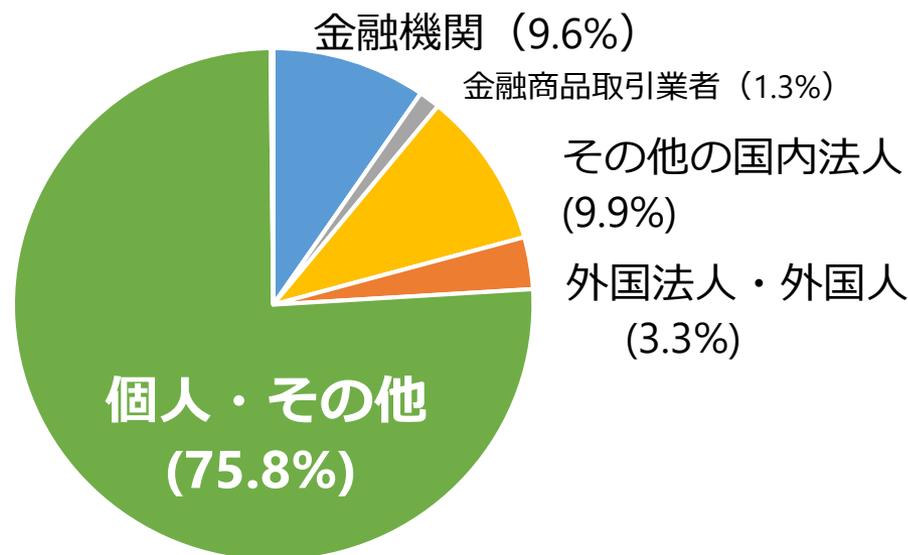
東証一部上場企業
株主数ランキング（全2,114社）

当社の種類別株主分布状況

全銘柄中**88位**、食料品銘柄中**5位**

順位	銘柄名	業種	株主数
1	みずほFG	銀行業	1,016,314
2	第一生命HD	保険業	774,028
3	日本郵政	サービス業	720,659
44	カゴメ	食料品	183,262
62	味の素	食料品	130,836
64	キリンHD	食料品	130,325
70	キューピー	食料品	112,695
88	ユーグレナ	食料品	88,047
90	アサヒ	食料品	87,238

（東証一部上場銘柄 平均株主数：21,892）



2018年9月30日現在

2018年11月19日日足ベース。平均株主数は2018年3月末ベース

当社におけるSDGs/ESGに関する開示の重要性

安定株主となりうる機関投資家の獲得のため、 SDGs/ESGに関する開示内容を増強中

投資家種類別のSDGs/ESGに関する開示方針の背景

	対アクティブ投資家	対パッシブ投資家
社会での開示強化の高まり	<ul style="list-style-type: none">機関投資家によるSDGs/ESGに関する企業との対話ニーズの高まり	<ul style="list-style-type: none">GPIFによるESG指数に基づく運用の開始
当社におけるIR活動上での課題認識	<ul style="list-style-type: none">大口投資家の投資ロット（時価総額1,000億円程度が投資対象となる一つの基準）と中小型株の時価総額のミスマッチ※特定の投資テーマを持つ投資家は該当企業への投資を積極的に検討	<ul style="list-style-type: none">中小型のグロース株を対象としたパッシブ投資家数が限定的（1銘柄の値動きがポートフォリオ全体に与える影響が大きくなるため）テーマ型指数の普及によりテーマに該当する中小型銘柄は投資対象
開示方針	<ul style="list-style-type: none">ESG投資家の予算枠獲得を目指す = 特別のIR説明資料	<ul style="list-style-type: none">ESG指数への銘柄組込みを目指す = 公開情報の充実

※ 時価総額1,000億円以上は東証1部上場2,111銘柄中768銘柄（上位36%）、東証マザーズ上場268銘柄中7銘柄（上位2%）のみが該当（2018年10月時点）

アクティブ機関投資家向け IR開示資料の使い分け

SDGs/ESGに関連する事業/社会的貢献活動の説明を重視

通常の投資家向けIR資料

2018年9月期 第2四半期決算説明

株式会社ユーグレナ

2018年6月

売上高	9,284
営業利益	5,072
経常利益	0
純利益	1,792
株主総数	11,966
EPS	8,151
EPS調整	5,482
EPS調整率	33.0%
EPS調整率(調整前)	72%
EPS調整率(調整後)	230
EPS調整率(調整前)	11,224
EPS調整率(調整後)	5,625

2018年6月

売上高	1,704	1,956	2,647
(内) 新規納入先	764	246	384
約束手当	1,498	2,413	3,277
(内) 広域納入先	1,227	2,246	2,811
営業利益	16,858	18,714	18,299
株主資本	15,638	15,700	15,169
(内) 利益剰余金	2,876	2,474	1,884
心付金	17	14	128
自給純資産合計	18,854	20,885	21,284

海外ESG投資家向けIR資料

Company overview and Financial highlight

euglena Co., Ltd.

May 2018

2018		2017		2016		2015		2014	
Revenue	1,008,719	1,211,714	1,008,719	1,008,719	1,008,719	1,008,719	1,008,719	1,008,719	1,008,719
Operating Profit	494,157	494,157	494,157	494,157	494,157	494,157	494,157	494,157	494,157
Net Profit	149,384	149,384	149,384	149,384	149,384	149,384	149,384	149,384	149,384
EPS	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4

Our SDGs Activity

- 1 NO POVERTY: Provide nutrient rich Euglena
- 2 ZERO HUNGER: Cultivation of Euglena could help reduce CO2
- 13 CLIMATE ACTION: Euglena can be utilized as bio fuel
- 7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY: The residue after Euglena oil extraction can be utilized as feed
- 14 LIFE BELOW WATER: Cultivation of Euglena is safe to ecosystem
- 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION: The residue after Euglena oil extraction can be utilized as feed

euglena GENKI Program

Provide 2 million meals of Euglena cookies to children in Bangladesh.

We have also started blood tests for measuring effectiveness of the program.

Energy & Environment Business - Progress of construction on Demonstration Plant

Start of construction: In June 1, 2017
 Completion of construction: In October 31, 2019
 In November 1, 2019

Aim to establish a commercial plant with several hundred times larger production capacity compared to the demonstration plant

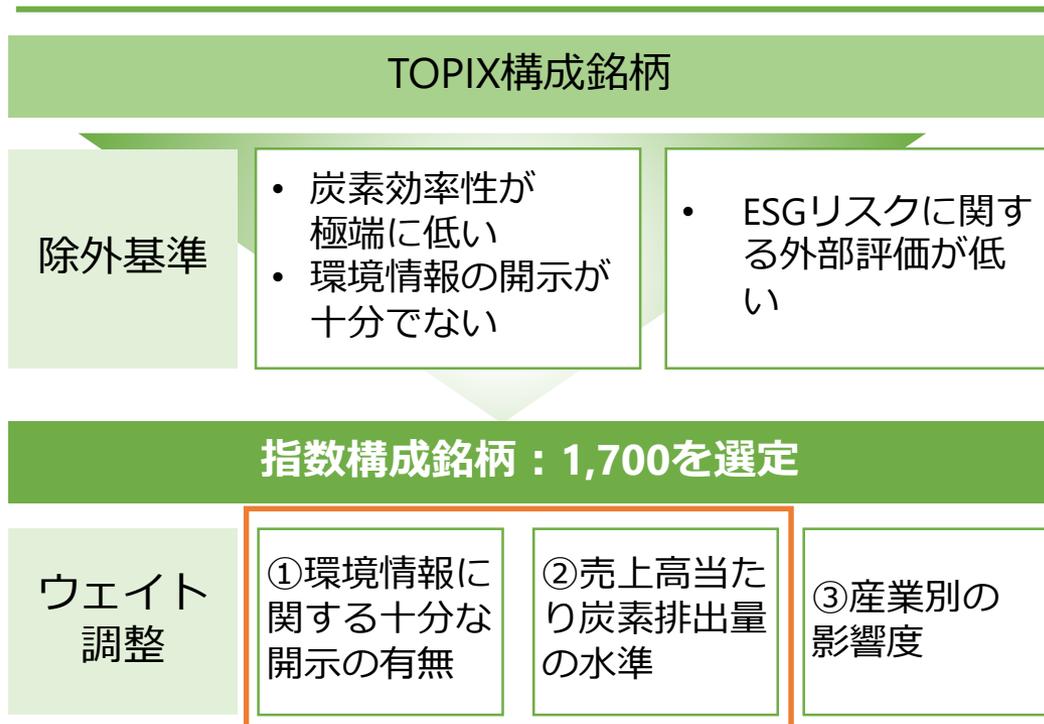
ESGを意識した情報開示（S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数）

特定テーマ（環境）型の国内株指数（GPIF採択）

当社は構成銘柄なるも、**環境/炭素情報開示の改善に向け準備中**

指数の コンセプト	TOPIXをユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性（売上高当たり炭素排出量）の水準に着目して、銘柄の構成ウェイトを決定する指数
SDGsとの 関連性	「7.エネルギー」、 「13.気候変動」への取組、 情報開示を評価
評価方法	公表情報を基に評価 炭素効率性の情報開示を 重視
指数構成 銘柄数	約1,700銘柄 当社も構成銘柄として 選定

銘柄選定と構成銘柄のウェイト調整の方法



- ・ 情報開示不足により構成ウェイトは最低比率
- ・ 開示資料にて環境情報と、炭素情報の充実を目指す

出所：東京証券取引所のWebサイトより当社作成

ESGを意識した情報開示（FTSE Blossom Japan Index）

総合型の国内株指数（GPIF採択）

指数組入を目指し、**ESG評価全般を意識した事業拡大と情報開示を推進**

		評価領域	14のテーマ	当社の取組
指数の コンセプト	対象銘柄のESGに関する取組を絶対評価。 評価が高い銘柄をスクリーニングし、最後に業種ウェイトをかけてESG総合型指数を算出	Environment (環境)	• 気候変動 • 水使用 • 生物多様性 • 汚染と資源 • サプライチェーン	• バイオ燃料事業 • ASC認証※取得
SDGsとの 関連性	14の評価テーマを設定 当該14テーマがSDGsの17ゴールを網羅			
評価方法	公表情報を基に評価 (有価証券報告書、統合報告書、CSR報告書、Webサイト等)	Social (社会)	• 人権と地域社会 • 健康と安全 • 労働基準 • 顧客に対する責任 • サプライチェーン	• GENKIプログラム • ロヒンギャ支援
指数組入候補	509銘柄	Governance (ガバナンス)	• 企業統治 • 腐敗防止 • 税の透明性 • リスクマネジメント	• 社外役員の登用増 • 反社取引防止 規程の整備
指数構成 銘柄数	149銘柄			

出所：FTSE Russelの公表資料より当社作成

橙色文字は当社重点取組テーマ。ASCは（Aquaculture Stewardship Council）の略